

通説ニ日本紀ヲ引テコノ二像ノ冠古物ナラント云左ニノス

推古天皇十一年十二月戊辰朔壬申始行冠位大徳小徳大仁小仁六位大禮小禮七位大信小信八位大義小義師位云今ノ四位大智小智五位

并十二階并以當色細敷絶縫之頂據捻如襪而著綠焉唯元日著髻髻華同絶敷 孝徳天皇三年是歲制七色

一十三階之冠乃至其冠之背張漆羅以線與異其高下形似蟬小錦冠以上之釦雜金銀爲之大小青冠之釦以銀爲之大小黒冠之釦以銅爲之建武之冠無釦也此冠者大會饗客四月七日齋時所着焉

六郡志に石華延文六年神宮寺宿音代建之云云

孝靈天皇御墓 六郡志神宮寺の上墓所に古き寶篋院塔有是を

孝靈帝の御墓と云傳ふ其後に

山有是陵ならんか此處より土生村のさかひみかどかはなど云所まで三町ほどあり御門大明神の社あり 孝靈帝の木像二軀を御神躰とす一躰は大にして蠶朽し一つは一尺ばかりにして彩色あり何れも束帯の御影なり吉備津彦命西道將軍として吉備國におはしける故御父 孝靈帝御讓位の後此處を仙洞として在し崩御ありけるにやいふかしたる樵牧の口にのこりて 孝靈帝の墓とのみ云傳へり

今按ニ此帝ノ御陵コ、ニアルヘカラスアルヒハ吉備津彦ノ國ニ居タマヒシユヘ御父ヲコ、ニモ祭リタマヘリシニヤシカレトモシルヘカラス 天武天皇八年三月巳丑吉備大宰石川王病之薨

於吉備 天皇聞之大哀則降大恩云云コノ國ニ陵ノ如キモノアルヒハコレヲノ人ヲ葬リシ所ナルヤ凡三國ワカレシノチニ吉備ト稱スルモノアルハ四國統テ掌ル官ナルヘシ石川王モシコ、ニ住玉ヒシナラハ南宮ヲ祭ルハコノ王ナルヘシ 天武美濃ニ居タマヒシ縁アリ吉備宮ノ南宮ト云モフルクツタヘシ事ナラハコレマタ誣ヘカラス後考チマツヘシ此宮又常村眞宮ナトニ古神像多シ圖別ニミユ

末社七 貴布禰大明神 アツハニアリ 羽黒大明神 帶刀大明神 六郡志に云立脇とも田窪脇ともいへり寺町にあり 神邊大明神 同書云今へつとらにあり 森本大明神 大羽大明神 同書云峠にあり 十禰師大明神 同書にとろもにあり又十傳作ともいふ 今按に諸社一覽神社啓蒙に美濃南宮攝社四座アリ内ニ十禰師社ト云ミユ 田和大明神 妙見 加谷ニアリ

小祠三十八 内二十六善神一鴨谷ト云處ニアリ 六郡志に木像七八軀ありいつれも腐朽して分明ならずうつは一腰ありいかなる人の納めしにや明細書ニムカシ正月十一日ニハ例歳弓ヲ射シトテ弓矢オサメアリト云

塔 寺 神宮寺 南中山眞言宗榮明寺末寺南宮社ニツカフソノ境内ニアリ開山シレム 大般若經櫃ノ書付ニ相國寺トアルハ當寺ノ事ナリト寺僧ノイヘリ是非ヲシラス南宮寛文九年ノ棟札ニハ既ニ神宮寺ト有通説

西龍寺 清教山同宗同末開山宥慶 清教山西龍寺舊記 備後國蘆田郡俱利加羅邑清教山醫性院西龍寺者往古號西明寺仁王七十三代 堀川院之康和元巳卯年廣瀬大膳大夫藤原通明之建云云仁王百三代 後花園院資徳二庚午年土生村用土昌禪再建云云元祿十一戊〇七月住持寺贈法印宥慶建立之訖中略

一寺領之儀御調郡木梨色鬘尾之城主杉原又太郎殿被寄附三十二貫到天正十六年盛州廣島之城主福島左衛門太夫正則沒收之其後元和五年六月正則配流信州同年八月水野日向守勝成公爲西國鎮福衛

山之城居住之時本尊敷地被寄附之元祿十二己卯年御檢地被仰付則備前岡山城主松平伊豫守御檢地之時古例通本堂敷地三畝十步觀音堂敷地五畝十步御除地被成高之外也往古昔十二坊有悉滅亡而本堂已及大破之間慶安二己丑年十一月朔日邑中之古老意合爲燈明料高二石宛寄附之下略

今按ニ天正十六年藝州廣島城主福島左衛門太夫正則沒收之云云福島ナラハ慶長十六年ニアラスヤ年月圖解ス

寺ニ杉原又太郎感狀一通アリ掛物ノ中ハカリノグリテ臺所ノ押マセニハリテアルヨシ掛物ハ蟬ノヌケカヲノ如キナハ余モミタリ可笑以上通盤ニ引テ山號モトハ西教ナリシト云

小佛屋七

憩亭五 四日市 中芝 大門 海田平 段ノ上

古蹟

土居城 又板屋城トモ云

大角右衛門尉 備後古城記一本古城記子息右衛門尉重門天正三年九月三日出奔シテ豊後大友氏

ニ仕フト云總叙ニ出ツ

徳毛監物 六郡志備後古城記備中府志一本古城記ニ名ハ基門杉原氏ノ家臣ナリト云

南宮後山城 加賀良八郎明細書ニミユ

加山城 福田助三郎土生村ノ杉原トタ、カヒシ所弓垣畑トテ櫓ノ跡アリト云

寺跡 六郡志に此村の内に寺跡といふ所多し寺町と云アサナ有此所には瓦のかけ多くありて佛具など掘出すことあり塔の跡と云所も有新市村安養寺中須村本覺寺當村神宮寺なども鳴谷にありしとなり

今按ニ國守下向ノトキ十四郡ノ治所ナレハ富庶モ想ヘシサレハ寺町ト云所寺刹多カリシナルヘ

又云のからと云所に石地藏の悲りの生たるもの祈れば必落と云一樵童あり指に悲の出たるを生豆を持行此豆生るまで悲を落したまわれと祈れば忽落つ豆一兩日にして生ければ悲忽ち生したりと云

本風呂 イツレノ城主カ下ヤシキノ跡ト云

四日市 ムカシ毎月コノ日ニ市ヲナセシヨシ胡堂ト云田ノ名ノヨル

鐘撞堂山 ムカシカ子ツキ堂アリソノ鐘イマ土中ニアリト云

十六神 鳴谷ノ原ナリムカシハ正月十一日ニ弓ヲ射シ所ナリト云

弓ヒキ場 火迫山ニテ正月十六日年々弓射シ所ナリ

國分寺跡

鍛冶屋鋪

六郡志に戸木の龍王の上の山を云今に鐵くる炭など土中よりいつると云

又云田雀脇の後の方を芦田と云芦田郡物能間國分寺左京介助國兼行などか住居のあとにや當村芦

田の邊を寺跡塔跡などいへはむかしの國分寺の跡にやいふかし

葦田 六郡志に此村田雀脇のうしろの方を云と有

今按ニ和名抄ニノセタル六郷ノ内葦田トイヘルハコノ所ナルヘシ

古今銘盡大全

水碓二

廟 墓

清瀧大明神 宮ノウ子ト云

今按ニコノ神號諸村ニ多シ或ハ青龍清瀧ナト書

小祠二十三 内ニ御門大明神アリ事別ニミユ

塔 寺

釋迦院 救護山眞言宗榮明寺末寺

六郡志に慶安元年宮内村一宮造營事終り遷宮有住持範性法印奴僕どもに一宮へ行く留主回祿して本尊ばかり取出し過去帳位牌をばしめ悉焼失すこのゆへに傳記由來開山ともにしられずと云

通證云當寺元祿六年ノ鐘銘ニ救護山實藏寺釋迦院トアリ檢地御圖帖ニモ地名ニ實藏坊ト肩ニカケル處多シ當寺ノ坊舎ノ跡カ又ハ境内ノ廣カリシニヤ今本尊ノ觀音ハ淵上城主杉原又太郎守リ本尊ト云傳フ

小佛屋二 通證云大目寺跡如來堂ト云處今田地ノウ子ニコレリ近邊ニ古墳多シ府中明淨寺ノ舊跡ナリ明淨寺ノ記ニ栗柄村トアルハアヤマレリ大坊ト云ハモト惣亭ナリシカ近年三疊敷ホトノヨ

キ堂ヲタツコレ榮明寺末寺二十一个寺ノ其一也今ニ國俗大師メクリニハ必參詣ス昔ハ大寺ナリシヨシ吉備津宮奉納ノ最勝王經ノ卷尾ニ備後國吉田郡與保土村上ノ坊トアルハ恐ラクハコレカ或人

ノ話ニ櫻堂ト云所アリ二十年前茅テ櫻ノ株ノコリ三四人圍モアルヘクミエシ近頃薙ヲタツト云里正ニ問ニ村中薙ナシト云イフカシ

水野記ニ新善光寺藤原善之備後ノ内ヲ領スルトキ建ツ領モト百貫ノチニ三十貫末寺實藏坊長福寺アリ鎮守社大宮臣古河ト云人建ツト云今按ニ長福寺如來堂ト云地名アリアルヒハソノ處ナルヤニ

人ノ名中古ノ人トミユ今尋マルカタナシ

惣亭六 高市 チスノ窟 松山 中井 林 井迫

古 蹟

淵上城 杉原民部太輔元經備後古城記 天文中 木梨氏代々居住スト云六郡志ニ杉原ヲ木梨ニツクル

今按ニ木梨杉原同姓ナレハオモヒオモヒニ名乗タル事トミユ上月記ニ康正二年十二月爲入吉野

山罷向大和人數着到ノ内ニ木梨三郎アリ府川法樂寺棟札ニ元經等ハ木梨ニツクル杉原七郎右衛

門尉經珍一本七左衛門ニツクル

杉原宮内大輔廣盛 文祿二年落城

杉原又四郎備中府志ニ出

又按ニ又四郎師直力催促ニ應シテ足利直冬ヲ頼ニセム又四郎或ハ又次郎カ誤ニハアラスヤ然ト

モ参考大平記ニ金勝院本ヲ引テ四ハ五ニツクル名ハ利孝ニツクルトイハハ又次郎爲平ニハアラ

スサレハ信平モシクハ爲平カ子ナルカ後考テマツ同所ノ注ニ南都天正本ヲ引テ四ヲ次ニツクル

ト云

六郡志に杉原木梨氏の子孫と稱するもの所々に持つたふる書をみれば木梨信平杉原爲平多々良濱の戦功によりて木梨尾道町同後地栗原小原實成白井冨迫木原吉和久山田梶山田合して十三ヶ所被宛行是を木梨の庄と云其後府中古府鶴飼中須栗柄高木土生柞摩金丸中島戸手福田近田大橋永谷今岡上安井下安井合して十九ヶ所たまはり都合三十一ヶ處を領すと稱す此事いふかし府中市は慶長元和の頃まで水の流れたる處なり常村を分ちて金丸村とし安井村を分て上下二村としたまひしを三百年前の高師直證文をしたためて引わたしたりと云こと一笑すへしと云

今按ニ木梨居城ノ時ト云モ近頃ニテ國司天朝ヨリ下向アリシ時ニハアラス梶原平三蛇園ノフモ

トニ來リシヲ見レハ昔ノ府中ハ其時ステニ荒果シニヤ
又按ニ木梨ノ庄トイフハ三原邊ノ總名ニテ上ニカソヘシ村々ノミニカキラス信平木梨ニ有シユ
ヘ木梨ヲ稱セシニテ木梨ニタマハリシ村々ユヘ木梨ノ庄ト名ツケシニハアラス又多々良濱ノ合
戰ニ木梨等ノ名ハ見エスソノ時ハ至極ノ小勢ニテ備後ノ人ハル々々トツキ隨フ時ニアラス將軍
大軍ニテ上ラレシ時漸ニ逗留シテ軍議有リ其時ナトニ馳參リテ隨行セシナルヘシ足利代々ノ書
ニ宮杉原等タヒ々々ミユ寵遇モナミ々々ナラスミユレハ初ヨリ從ヒシハウタカヒナシ
古塚一 横一間半入り四間
孝 子

長五郎 總叙ニ出 こん 同

福山志料卷之十九終

福山志料卷之二十

中 須 村

福山ヨリ三里二十町戌亥ニアタル村東西十二町南北十町ムカシハ中洲村トテ蘆田川ニツニ岐レタ
ルソノ中ニアリシト云

田 畝 八十一町八反六畝十七步 内畠四十二町七反三畝二步

歳 額 八百四十一石二斗二升四合 内畠三百六十四石三斗六升八合

戸 口 戸百六十四 口七百十四内女三百五十五外ニ僧三替一

畜 牛八十九 馬九

溝 渠

蘆田川 高木村栗柄村界ヨリ新市村相方村界マテ堤長八百九十七間

砂 川

池 塘

岡池 長四十七間四尺横三十六間

小池一

橋 沟

小橋八

廟 藁

良大明神 外ニ同名ノ社一ツ假名ニテカクソノ故チシラス

北條大明神 明細書ニ法城トアリ北條ハ地名也コノ類神ニヨリテ地名トナルカ地名ヲ神號トナセ

シカ

小祠十二 別ニ縫殿助社軍大明神アリ軍神社廣谷ノ條ニミユ

塔 寺

圓福寺 石峰山眞言宗榮明寺末寺開山宥智法印寛文二年寂

本覺寺 妙谷山法華宗本興寺末寺

六郡志ニ京都本能寺尼崎本興寺ノ末寺ナリト云

此寺モト栗柄村鴨谷ニアリ

西法庵又西方寺 庵トモ云 ヨノ西法庵ハ古ヘハ龜地山西法寺ト云シ古跡也ムカシハ寺迫ト云所ニアリ今ハ北

條ニアリ文祿年中廢壞スソレヨリ寺號中絶セシテ今ハ西法寺庵ト云當寺ノ本尊ハ當時龜壽山ヨリ

ホリ出セリト云西法寺退轉後ハ里正ノ宅ニ安置セシカ曆寶四年甲戌二月一庵ヲ建立シテウツシテ

本尊トス寺號免許アリテ有地村正滿寺末寺トナルト云

小 佛 屋

憩亭二 竹安 茶堂

古 蹟

黒 尾 谷

通説ニ宮内黒尾明神皇太子ノ二社共ニ先ハ年中須村ノ内新市ノ近邊ナル黒尾谷ニ鎮坐アリシ後チ

ニ宮内ヘ引マツリシナリ本コノ社ハ品治氏ノ祖神ニシテ當時品治氏ノ人々此黒尾谷ニ住セシユチ
此所ニ祀リ來ルイツノ比ヨリカ同村ノ中カセキトイヘル處ヘ居ヲ移セシニヨリ又其所ニ皇太ヘ子
マツレリ黒尾明神モ合祭セシニヤ差出帳ニハ黒尾ト地名ノコトク肩書ニシタリ然トモ元來黒尾皇
太子ニ神別坐ナレハコソ今宮内ニモ二社ナラヘ建タレ此カセキヘ祭りシモ宮内ヘ祀リタル後ノヨ
シイヒ傳フ黒尾谷ニ今ハ社ナシトイヘリ
軍ノ端 廣谷トツ、ク
旗立石 宮下野守ノハタチタテシ所ト云

高 木 村

福山ヨリ四里乾ニアタル村東西十五町南北九町

田 畝

九十七町二反二十一歩 内畠四十二町一反七畝十四歩

歲 額

九百五十九石六斗七升四合 内畠三百二十二石二斗四升

戸 口

戸二百二十 口千二内女四百九十三僧七替二外茶筥二十三機多十七

畜

牛七十五 馬五

溝 渠

蘆田川 堤長八百七十六間

砂川 府川村ヨリ中須村へ落ル
井手溝 中須マテ八百四十間幅七尺

舟本 大木 馬渡 尾道往來
小橋九

王子大権現 通證ニ社内ニ豊武大明神トイフ所アリ此村豊田氏回上氏ノ先祖山伏ヲコロスノ靈
タ、リテ災ヲナシケルユヘ神ニイハヒシト云

稻 荷 社
小祠五 通證ニ宮造ノ社アリ應永ノ比一宮座帳圖ニミユ
今按ニ造ハ國造伴造ノ造ナルヘシ

塔 寺
西雲寺 光明山淨土宗智恩院末寺開山品譽上人巖龍和尚金龍寺ノ一代也
六郡志ニ寛文二年七月二十日作州津山涅槃寺にて寂すと云又云本堂額には麻照山とあり
通證ニ西雲寺ハ町村金龍寺ノモトノ隱居所也寛永十二年ハシメテ西雲寺ノ號ヲユルサレ萬治三年
本寺直末ニナレリト或記録ニミエタリ

寶臺院 高木山曹洞宗龍興寺末寺開山通巖徹水和尙
憩亭七
小 才

コノ亭吉祥寺跡也本尊藥師府川法樂寺ニアリシテ府中明淨寺ニツクリ改テ本尊トス

天満 上ヒラキ 中ヒラキ 河原 イナリ 辻カハナ

府 川 村
福山ヨリ四里五町亥ニアタル村東西五町五十間南北六町四十九間
六郡志に木梨氏淵の上居城のころ此村すなはち府中市にて今の府中は町はつれなりしよし某が舅
の祖父常に云けるは福島殿領地の時當府中市などより東南は河原にて其末町村榮明寺の下へ流る
宗休侯入國以後本町出口村まで町家立つゝと侍る其前は織川端に家並あり我等かこの宅を造りし
時河の中に家を建たりと人々わらひけるか程なく建繼さ个様の町場となれり河原段々埋りて渺々
たる荒地なれば誰に願ふといふ事もなく府中の者共みつから繩張して家立移りすみし故いつとな
く此河原を府中市といひ引ける跡を府中村又は古府中などいひけるか宗休公檢地以後府川村と名
を改られたりと今おもふに左もあるへし福島引渡帳に府中五十九石一升九合府中村四百八十
石二斗九升とあり

七今按ニ此アタリ四五村ミナ府中ノ郭内ナリシヨシナリコ、ニ府中ノ名ノコリシハ官署學校等ア
リシナルヘシ今ソノ所タシカナラス

田 畝
二十八町七反八畝二十八歩 内畠九町一反三畝五歩

歳 額
四百二十一石三斗一升八合 内畠八十七石六斗四升三合

戸 口
戸三十八 口百八十九内女八十六僧一

◎福山志料卷之二十 蘆田郡

五

畜

牛十四

溝 渠

蘆田川 堤長九町二十間

沙川 町村高木村へ落

小溝 府中ヨリ流來ル

堰 開

大井手 長三十間横三間高一間

橋 約

圮一

廟 墓

天神宮 當村高木二村生土神

二宮大明神

小祠五

塔 寺

法樂寺 補陀落山眞言宗榮明寺末寺

六郡志ニ此寺ハ淵上の城主祈願寺の由明王院隱居觀意上人申されき棟札の文ここに記す

杉原播磨守

大願主木梨民部太夫

木梨七左衛門

天文二十一年壬申年八月建

勝 宅

池田 隼人

願 主

同 帶 刀

又云行基菩薩開基といへとも宗休公時迄は無住にて廢絶同斷なりし所町村榮明寺宥泉法印建立いたされ夫より今迄相續す依て宥泉法印を中興開山とす

榮明寺宥泉

元和七辛酉年五月建

豐田九郎左衛門元直

池田惣左衛門信政

觀音堂はもと門より外にこれあり

元和十甲子年觀音堂修葺

寛文八戊申年十一月觀音堂門内江引修復

又云池田隼人帶刀は當時の檀那にて兩人の位牌有之

池田隼人忠政法名小峯淨運居士天文二十二甲寅七月二十八日池田帶刀政利法名知雲政利居士慶長

七壬寅六月二十一日

法樂寺住持記 通證ニノスル總專長ケ
レハ要所ノミシル

備後之國蘆田郡府川村補陀落山法樂寺千手院者當初行基菩薩開此地給傳聞也往古府中之場所所有當地依東西南北賣買便得安中古文祿之此場所出口村今一日市江引故世人字當所云古府中然所去比本府紛敷故改府川行基菩薩諸國行脚之砌當寺開基云住持中絶寺院破滅之間幾年不知殘所本堂一字于時天文二十一比天台宗有現住名不知再建供養大檀主木梨七左衛門尉經珍土生村淵上在城也寺造營

之行事寺附正檀那古府中住池田隼人正忠政池田帶刀政利自是四十年無住也
天正ノ比壽光ト云老尼久敷當寺住居元和ノ比滿八十餘歲而死
右ノ外元和以後ノ事ハ六郡志ト同シケレハ略ス

通證ニ此寺古書目錄アリ

一雜書拔書一冊卷尾ニ永享九丁丑三月吉日書之定賢トアリ

一行法問答義一冊卷端ニ盛瀧之卷尾ニ文永十一天七月備後賢清之トアリ

觀音堂

地藏堂

六郡志に土井にあり古跡なり棟札あり土井山觀音院東線坊とあり

通證ニ云東線庵ト云古寺跡アリ今其舊趾ニ四ツ堂アリ此寺ノ古佛數々アリシカ今所々ニ散在セリ

今榮明寺ニモ數々アリト云一説ニ當村ノ天満宮ノ尊像ハ即此寺ノ十一面觀音ノ像ナラントイヘリ

余天神開扉ノ時拜シタリシニ至テ古ノ像ニシテ今代ノ天神ノ像トハ定メ難ケレトモ又佛像トモ定

難シ

憩亭ニ 土居 三日市

古蹟

古城 中村越後守家成

備後古城記一本古城記ニハ山名氏ノ家臣ナリト云其所サタカナラス

今按ニ有地カ山城ヲ下リテ野居セシテ土民御土居ト稱セシヨシサレハコレモ村中ノ土居ト云所

ニハアラスヤ方言凡竹塙ノクリタル屋舖ヲ今モ土居ト云

石鳥居 畑ノ中ニアリ

六郡志に此鳥居むかしより有ていつれの宮の鳥井といふ事をしれるものなし延享寛保のころにや
本山村山王の禰宜石岡氏日吉とあれは本山山王の鳥井に相違なしと訴へしによりそれを極まる里
諺にむかし本山村山王の鳥井大水にて流れ來りたりといへとも本山は一村皆山にて山王は余程山
上にありいかなる大水にてもそれまでのほるへからすとひ山下に有てなかれたりとも石の鳥井
を漂はす程の水ならば鳥井の具不足すと云ふ事あるまじきにあとにて補ひたてし物ともみぬす
扱又鳥井の鏡ニツ有一ハ切石にて日吉の二字あり一ハ自然石にて文字の形あれとも讀へからず鏡
石より直に額を仕附たるはあれ共これに神號を彫たる物なし今この鏡石に彫たるは鳥井の額失て
後好事の者の作爲せしなるへし又自然石を以て鏡石とならへかけたるも不審なり町村榮明寺の山
に熊野權現の社あり此鳥井より見れば正面に當るあるひは此宮の鳥井にはあらずや此邊大河にて
榮明寺の前より此鳥居際まで百六十間の橋有しなどいひ傳ふれば必熊野權現の鳥井なるへし元文
の比大風にて吹倒しけるを寶曆十年庚辰再建し侍る今鳥井の再建の年號を彫つく

通證ニ今鳥井ノ東石ニ日吉ノ二字有石ニツアリ一ハ角石一ハ自然石ナリ角石ノ文字再建ノ時彫刻
セリトモ又ムカシヨリ有共云文字ノサマ近世ノ書トモ定メカタシ又自然石ハ曾テ近鄰ノ法樂寺ノ
竹林中ヨリ掘出セリ日吉ノ二字アルヲ以テ村人此鳥井ニ附セリトモキコユ又大同ノ文字アリト傳
ルユハサカシ見レトモ見エス鳥井ノ笠石ニアリトイヒシ人アリシユヘ余曾テ人ヲシテコレヲ見セ
シムルニ見出サス或ハ履石ニアリトモイヘト土中ニ埋没セリ笠石本山村ト書柱ニ寶曆再建ナト書
スルハ大ニ古色ヲ損セリト云同書ニ耳語橋ノアリシ所ナレハ或ハ橋柱ノノコリタルヲ鳥井トオモ
ヒテ文字ナトエリシニヤトモ云

今按ニ此地古ノ國府ノ跡ナレハソノカミコ、ニ居住セシ官吏等ノ屋舖學校等ノ跡モアルヘキニ
今ソコト云事知人ナシコレハ何國モ同然ニテアナカチニ此國ノミニ舉稱スル事ニモアラサルヘ

ケレト陵谷滄桑ノ變コノ後の知スヘクナルヘキ事無ニシモアラス或ハ陶銅古器古敗瓦等ノモノ
土中ヨリ掘出ス事アリ或ハ古墓古誌等ノ品水岸道側ノ崩ヨリ露ハル、事アリ或ハ備後風土記故
府中圖記等ノムカシアリテ今ナキモノオモハヌ方ヨリ出ル事モアルヘケレハ今ソノ大略チアケ
テ後世チマチ又コノ國ハ質樸カチテ禮文タラサリシナ當初聖主賢臣打ツ、キテカクノ如ク經營
アリソノ後數百年ノ亂世ヲ經シカトモ今尙今ノ世界ニハナリタルソノ御惠ノ一端チモ想見スル
タメニス

守人 介人 掾人 目人 史生三人 延喜式作四 大毅一人 少毅二人 主帳一人 校尉五人 撰師十人
隊正二十 博士一人 醫師一人 學生四十 醫生五 健兒五十

右ノ外守ニ隨從スルモノ國司ノ條ニ大概ヲ舉クソノ外介以下諸吏單身ニアラス各護衛供給ノ人
モアルヘケレハ官署私宅コレニ副フヘシ又郡別ニ大領一人少領一人主政二人主帳二人アリ又軍
團一千人アリコレヲノ輩十四郡ヨリ事ニ隨テ來集スヘシ
類聚國史云陽成天皇元慶二年九月十三日戊午先是遠江國司言前司時燒亡官舎二十五宇倉一百四
宇交替之日不輒言上云云コレヲ例シテシルヘシ外ニ又孔子廟及國學アリ

延喜式 諸國釋奠式二
釋奠二座 先聖先師先師顏子魯三座
器數

籩十六 座別八竹豆謂之籩其實石製
豆十六 座別八木豆謂之豆其實非籩
簋四 座別二外方內圓謂之簋其實非籩
簠四 座別二外方內圓謂之簠其實非籩
之篋其篋稻飯案飯

俎 六座別各三其實
樽 四座別各二其
杓 四座別各一其
爵 三座別各一其
站 八座別各三
昨完俎一

籩 一
盥 一
杓 一
洗 一
爵 一
幣 一
幣 二條 各長一丈八尺
巾 二條 各長四尺
楸版 二枚 尺二寸弘七寸六分
篋 二合 盛幣
炭 一合 燒祭文
松明 卅把
油 一升 府中
蓋 四口 燈臺

凡盛物筵實石鹽五顆乾魚乾粟黃榛人菱人炎人各一升鹿脯一斤八兩豆實韭菹一升醃醃五合青菹一升鹿醃五合芹菹一升菘醃五合笋菹一升魚醃五合篋篋實稷飯用米六合黎稻梁飯各用米七合樽饗皆一斗爲量牲者皆載右肘前脚三節肩臂膈筋一段皆載之後脚三節節一段去一節載上臑脰二節又取正脊隨脊橫脊短脇正脇伐脇各二骨并以餘皆不設若土無者皆以其類充之

職

三獻官三人 守爲初獻介爲亞獻博士爲終獻若守介有故並以次差攝博士有故取史生以上攝

參軍事一人 掌讀讀并導引初獻事

贊札 掌授贊讀

祝二人 文賜福酒事

掌事二人 掌設幣神位及陳樽

贊唱一人 及儀式事

協律郎一人 掌樂事

贊引一人 掌導引

執樽四人 先聖二人先師二人

洗所三人 一執洗一執盥一執

執俎二人 掌賜

執籩一人 掌同

執饌十人 掌奠豆

前享三日守散齊於廳別寢二日致齊於廳事一日亞獻以下預享之官散齊二日冬於正寢致齊一日於享所散齊理事如舊唯不吊喪問疾不作樂不判署刑殺文書不得刑罰不預穢惡致齊享事得行其餘悉斷其

享官已齊而闕者通攝行事其諸學生皆清齊於學館一宿若上下當國忌及祈年祭改用中其諒闇之年雖從吉服一從停止

前享二日掃除廂內外設樂懸於廟庭又爲瘞瘠於院內堂之壬地方深取足容物南出控設守以下次於門外隨地之宜

前享一日哺後令健兒守廂門云云

維某年歲次月朔日守位姓名敢昭告于先聖文宣王維王固天攸縱誕降生知經緯禮樂剛揚文教餘烈遺風千載是仰俾茲末學依仁遊藝謹以制幣犧齊黍盛庶品祗奉舊章式陳明薦以先師顏子配尚饗以上孔子維某年歲次月朔日守位姓名敢昭告于先師顏子爰以仲春仲率遊故實敬修釋奠于先聖文宣王惟王庶幾體二德冠四科服膺聖門實臻靈奧謹以制幣犧齊黍盛庶品式陳明獻從祀神尚饗以上顏子諸國釋奠云凡諸國春秋釋奠先聖先師二座別米二升酒二升脯一斤並直稻雜膳一升把雜菓

子各一斤束燈油五合幣絹一丈八尺國司以下學生以上人別米酒各一升脯饗各五兩雜膳五合明衣布衫四領別一尺布袴四腰別五尺食單十一枚十枚別三尺八寸三分其明衣以下破穢乃換右ノ外マタ兵庫ト云モノ國々ニアリテ兵器ヲタクハハラル貞觀八年九月七日美作國言兵庫鳴聲如擊鉦鼓同十三年壹岐國兵庫鼓鳴同年佐渡國兵庫震動凡兵庫ノコト諸書ニ多シマタ甲斐ノ兵庫モ鳴動セシコトアリ其サマ微小ナルモノトハミエス

續日本紀卷第二十云天平寶字元年古者治民安國必以孝理百行之本莫先於茲宜令天下家藏孝經一本精勤誦習倍加發百姓問者孝行通人鄉閭欽仰者宜令所由長官具以名薦コレヨリ以下引ク處ヲミテ當時ノ政教ヲウカ、ヒ又コノ府川村ソノカミム光景ヲ想見スヘシ

朝野郡載補郡司官符一擇吉日可度雜公文由牒送前司事

自餘公帳隨國例耳次巡檢諸郡鹽穀類及雜官舍有五行什器等若有不動穀者依丈尺高勘之其動用穀者頒弄土石以實受領次勘官舍

神社學校孔子廟堂等祭器國總院共郡院等官厨家及諸郡院別院院家佛像國分二寺堂塔經論等

續日本記卷十云聖武天皇五年八月壬申太政官議奏改定諸國史生博士醫師員并考選叙限史生大國四人上國三人中下國二人以六考成選滿即與替博士醫師以入考成選

延喜式云凡諸國博士醫師解任之後既進解由者各選本司令熟本業各注上日每年申省與考若望更任者聽之不勞覆試其被試及第既任遭喪者不待服闋復任

醫生祿待醫職任者亦准之

其秩滿任解之後更任者亦同此例但先不經課試者不在此限

凡諸道學生才學頗長其道博士共舉為諸國博士醫師者雖非奉試及第皆為受業自餘為非業

凡明法生課試通六七條者任國博士

凡藥生等雖不奉試而習合藥療治者待醫等共舉申者任國醫師

凡諸國權史生博士醫師選任並依讓相代之輩其籤符注所遺歷

凡諸國受業博士醫師補任解文並籤符名下注各本業

凡諸國史生博士醫師籤符外記勘會補任帳明知其補由然後請印

卷十一

右ノ外又講師讀師ナト云モノヲ任ニ下サレテ講説ヲナサシメラル講師イマタ下ラサル間ハ國分僧ヨリ撰ヒテ代ラシメ讀師ハ國分僧ノ次第ヲ以ナサシムトミニレハ寺ニハアラスノ役所

マタココノアタリニアルヘシ前後文字脱誤アルニ似タリ

續日本紀天平勝寶二年五月乙未於中宮安殿請僧一百講仁王經並令左右京四畿內七道國諸講説焉

延喜式凡諸國講讀師者寮與僧綱俱孟冬一日簡定牒送省

其牒僧綱監署便捺綱所印

但其牒不留寮家副寮解送省送

省亦加文解共進官即經奏開明年二月以前下任符其裝束程准俗官法若事故安居以前不到便令前講師或國分僧堪之者且為講説其供養布施料者隨各講經日數分充

凡諸國講師擇年四十五已上讀師四十已上者補之但雖階業已滿之輩而年限未及不可擬補

凡諸國講讀師任意留連遲向任國延引日月類一切不得選用並預公

清行意見十二條云重望諸國講讀師雖成階業非精進練行者不得擬補又國分僧若有濫穢而講讀師不糾者解却講師

類聚三代格云太政官符應簡任諸國講讀師反調替六年為限事

右得綱條備按太政官去延曆十四年八月十三日符備右大臣宣奉勅如聞諸國師任限六年益預他事

煩以解由自今以後宜改國師曰講師每國置一人舉才堪講説為衆推讓者申官奏聞然後聽補一任之後

不得輒替但讀師者國分寺僧依次請之者今於諸講師或身斯老死或情無知定則自倦講席何堪誨導遂

便汚法隨罪背師棄資加以當國師等檢掌伽藍諸寺綱維趨走府廳此非道俗異形魚鳥殊性之意伏望簡

大德而任講師舉少識而補讀師限以六年為秩滿期其部內寺寄附件師然則用之榮永存媚俗之辱自

息謹請所分者有大臣宣奉勅所以撰用講師特居外住者本欲人能弘道教以民利也而今名應簡擬實乖

委寄然則味進之可責豈非採擢之乖方宜準所請折中處分其講師年限一依來請但淺學之輩未練戒律

年少之人時開違犯宜簡年四十五已上心行已定始終不易者補之簡才用讓申官經奏等一同前格若有

自事街賣妄求俗舉者永從擯出以懲後輩如僧綱受囑撥情論之其讀師者依舊用之又部內諸寺者講師

國司相共檢校不得獨恣

以上數件昔ノ國府ノサマ略ミルベシ

名 勝

耳語橋名所方角抄秋庭覽等

熊野なるをとなし川にわたさはやささやきのはし忍ひくに

能因法師

今按ニ町村ニサ、イケト云所アリソノ所ニサ、ヤキノハシト云小橋アリソレニヨリテソノ川チ音ナシ川ト云ミナ後人ノ附會也六郡志及通證ニノセタル辨論マタ晋帥カ聞ク所等クハシク辨説ノ條ニ出ス

蘆田川 名所方角抄三才圖會和爾雅秋經覽等

夫 木 集

讀人 不知

稀にきてわかすわかるゝあした河なみたそ袖にみをとなかるゝ或云コノワタ今ノ夫木集ニハノセス

續松葉集後朝戀

などや身もなかるゝ後のあした川はしめは袖のなみたばかりを

範 興 熊野 祠官

名にも似すはやくれわたるあした川冬の日影のよとむ瀬もなく

忠 豫州渡邊 友左衛門

かけのこる月をうつしてあした川わたる瀬涼し水の白浪

正 西山 拙堂

はるゝと水上かすむあした川あさ渡りしてさくら狩せん

鳴祐 爲梨木上 總介

行水のみどりそかすむあした川かはそひ柳影もなかれて

全

あした川いさこなかれてきよき瀬のかすむや水の緑なるらん

梨木氏ノ二首ハ中津原ニテヨメルウタ也此ニ附ス範興以下ミナ近人ナリ

廣 谷 村

福山ヨリ四里戌亥ニアタル村東西十七町二十間南北十七町二十間

六郡志にむかし徳圓寺の邊より常福寺の邊まで鶴飼村といひ廣谷寺の邊をば廣谷村といひけるや福島氏引わたしの帳には廣谷村とありて鶴飼村といふ事なし廣谷鶴飼二村にてありし事は元和以前ノ事とみわたる鶴飼は今一處のアサナとなる
通證云慶長三年伊勢太夫配札帳ニ鶴飼村トアリ

田 畝

八十町四反三畝二十四歩 内畠二十四町五反五畝十六歩

歳 額

八百二十四石六升九合 内畠百五十四石三斗四升三合

戸 口

戸百四十一 口七百五十一内女三百五十僧十替四外穢多四十七

畜

牛五十六 馬三

溝 渠

鶴飼谷小川 常村ヨリ高木マテ長八百八十間

本谷川 宮内村ヨリ高木村マテ長六百二十四間二川トモニ續流ナリ

池 塘

小池十一

堰 關

關一 長六間幅三尺

水碓二

橋 約

小橋十六

山 溪

嶺三

千盪 宮内ニ通ス

木曾丸 宮内連下ニ通ス

市木 常村ニ通ス

廟 墓

清瀧大明神 鵜飼生土神

六郡志に鐘の銘に備後國芦田郡鵜飼村清瀧大明神願主有馬八郎兵衛近吉入道惠閑延寶八年庚申九月吉日とあり

通證ニ村老ノ口碑ニ鵜飼清瀧大明神ノ社ハイニシヘ同所十輪院ノ上ノ高丸ニアリシトイヘリ此山

ノ名ヲハナクイ御前ト云今此所ニスコシノ壇アリ

稻月大明神 本谷生土神

通證ニ載スル所清瀧稻月兩社言上之略

勝照三年丁未初秋麻戶皇子守屋逆臣御追討之時清涼殿惣司久米之大臣稻月大臣鬮戰依有志當國之國司被爲備候ト申傳候然ル處數百年後宮松岸ト奉申人承安二年壬辰仲春吉備津彦大明神不思議之蒙御靈夢則任御告之旨二人ノ大臣奉崇神清涼大明神稻月大明神之兩社は也

一社領之義自昔三十六貫天正年中迄兩社付來リ申候

一天正二十年毛利殿被爲破落于今無御座候就夫宮破滅仕今ハ假ノ草葺ニテ御座候

社務意ト判

寛永十六年己卯彌生中之吉祥日

右御江戸へ依爲言上當所之代官有馬平左衛門元眞古來數通證文相尋書上之畢

今按ニ佛ニ歸依セシ人ナラハ蘇我ノ稻目ナルヘシ稻月ト云人ハ見エス稻目モ守屋大連カ職ニ會

セシ事ハ諸書ニ載セス久米大臣モ亦ソノ比ニミエス清涼殿惣司ト云官モ亦イフカシ稻目屯倉ノ

事ニテ吉備ニ兩度來ル事アリアルヒハ惠政アリテコ、ニ祭リシニヤ 孝德天皇ノトキ來目臣

名三輪色夫君等法頭ト云官ニナリシ事アリ久米アルヒハコノ人ヲサスカ

八 幡 宮

小祠八

塔 寺

善行寺 加納山淨土眞宗德圓寺末寺開基善行

德圓寺 龍松山淨土眞宗明淨寺末寺開基春教

廣谷寺 朝光山臨濟宗開山封山和尙

六郡志往古ムク山永雲寺の末寺なり封山は永雲寺の一代にて松永承天寺萬國和尙の師匠なり萬國

頼津安國寺へ轉任の公事已後福山弘宗寺の末寺となる

十輪院 陌明山榮明寺末寺來由詳ナラス六郡志ニハ東地寺眞言宗開山沙門秀雄中興法印宥智トミ

通證ニ本尊觀音目崎西明坊本尊ノヨシ西明坊廢絶ノ後當寺ニウツスモト榮明寺本尊也ト云又同尊

二十輪院本尊坐下銘ヲノスリノ文ニ數百歳ノ昔讚州誕生院ノ法印宥範様此榮明寺受勅開給候時云云今依令破損給頼諸檀那之助成彩色者也寛永二年三月十一日府中町村榮明寺自宥範十六代自範榮十五代目之住持法印宥泉之時再興之者也トアリコノ宥範カ事別ニ辨説アリ

常福寺 清瀧山眞言宗中興開山憲譽法印榮明寺末寺

水野記ニ古志出羽守武綱ノ子對馬守廣綱永享二年建之田五町八反ヲヨスト云今ナシ
通證ニ此寺蓮華形水鉢ノ銘ニ天文二十一年壬子十一月吉日尾道大工佐右衛門トアリ
憩亭三

有馬堂

六郡志に阿彌陀といふ府中往還にあり堂内に位牌あり寛永十年閏七月施主有馬大藏とあり

今按ニ大藏ソノ女ノタメニ立ルヨシナリ

伊豆谷 本谷

古 蹟

上軍ノ端 下軍ノ端 事古戰場條ニミユ

六郡志に宮内小野の宮の搦手なりと云

通證ニ中興寺ノ古文書數通ヲノス田地ノ名ヲ注セシ中ニ軍神田一宮末社田三段ト云處アリ軍神社
今中須村ノ内ニ屬ス下軍ノ鼻ト差出帳ニアリト云

白井 水

六郡志に府中往還の道側にある清水なり由來しれす又云白井の水は高木村有馬堂の東五町ほどにあり碓の如くにして炎暑にも清冷なる水なり淺井の水は府中光蓮寺にありいつれの頃の事にや上山村に孝心なるものあり其母臨命の時何にても好たまへ調べてまいらせんといひければ白井の水を

汲て得させよといひける故安き事なりとて汲に下りけるか高木村までは二里餘も有なん其内落命の程しれかたしとおもひて淺井の水を汲て與ければ是は白井の水にあらす淺井の水なりといひて死けり其子涕泣して我今まで父母の命にたかふ事なかりしにかく命終に及て母の意にたかひけるよと歎きけるとなり

孝子

千助 總叙ニ出

町 村

福山ヨリ四里八町乾ニアタル村東西八町四十間南北九町十三間モト府川町村ト云

田 畝

三十七町四畝二十二歩 内畠十五町九反二畝十七歩

歳 額

五百二十二石二斗一合 内畠百五十一石三斗八升七合

戸 口

戸七十六 口三百五十九内女百七十一僧六

畜

牛五十六 馬一

溝 渠

河淵川 本山村ヨリ府川村へ落

池 塘

小池五

堰 開

水碓一

橋 約

小橋六

内ニサ、ヤキノハシト云アリ

山 溪

湖一

或ハ音無川ト云

廟 墓

小野大明神

通證云社地ニ總社明神ノ社アリコレ此處ノ地主ノ神ニシテ往古ヨリ此處ニ鎮座ナリ

今ノ本社小野明神ハ百年前此地へ移セシヨシ小野明神ノ舊址ハ銀山路ヨリ東北ノ間平地ニシテ民

家ノウラニアリ村人ノ口碑ニハ昔イツノ頃ニカ伊勢ノ國ノ軍兵トモ出口村八ツ尾ノ城ヲ攻ムルト

キ敗軍シテ守護神ヲ捨置歸リシ村人トモ小屋ヲ營シテ祭り置シユヘコヤ明神ト云其地ハ今ノ金

龍寺ノウシロノ山ナリコレナイセイザト今ニ云此説若シ是ナラハ其後今ノ民家ノウラニアル田址

ヘハウツセシモノナランカ是非ヲ知ラス

小祠十三、内ニ大明神ト云小野宮境中ニアリコレ總社ナラント云諸國ノ總社必大社ナリコノ處古

府ナレハ國中ノ神ヲアツメ祭ル所ナルヘシ

古墓一、榮明寺ノ後邱ニアリ形古雅ナレトモ没字碑ナリ

塔 寺

榮明寺 教王山眞言宗御室末寺

六郡志に備後四箇の院跡の内なり四院は尾道西國寺上下の佛心院中條廣山寺をよひ此寺なり天文

の比より廢跡となりて寺號はかり残りしを元和の比宥範上人再興せられ再院跡の一と云

通證云此寺モト銀山路ノ側ニアリ天正ノ比今ノ處ニ移ス大門ト云アサナアリト云

同書ニ載スル所ノ由緒書

一當寺開基之儀往古者委細知不申候中興開山讚州善通寺より渡られ候宥範僧正ニ御座候夫より以

來四百有餘年になり申候

今按ニ六郡志ニ中興開山ハ元和ノ比宥範上人トミユ通證ニハ宥範觀應三年七月寂スト云觀應ハ

貞和六年正統ノ正平五年直義歸順ノ年ナリ年代ヨホトタカヘリ六郡志誤レルカソノ是非ヲシラ

ス元和ハ天下偃武ノ時ニテ國々所々ニ舊跡ヲ興ス宥範コ、ヘワタリシニハアラス善通寺ヨリハ

ルカニ弟子ヲ來ラシメテコ、カシコノ廢寺ヲ再建スト云明王院ノ中興モコノ人ナリアハセミル

ヘシ或云宥範モト金枝玉葉ニテ高松丸龜ニ侯ニ接スルニ羅傲甚シ因テテリノ寺領ヲ收没セラルト

信然ナリヤサレハ元和ノ頃ト云ニ據アリ然トモイフカシ説別ニミユ

一先年一派之衆徒於國中ニ撰四ヶ寺之法談所毎年度令會集宗議致論談候時節當寺も其四ヶ寺隨一

ニ而御座候ヘハ今ニ談儀所ト申傳候

一本寺ハ京都御室御所にて御座候當山末寺先年ハ三十六院有之候所年々致破滅今ハ十四ヶ寺御座

候

一毛利家の御代迄ハ爲國家安全之御祈禱料物當村本高之内百石之知行御寄附依之於吉備津宮毎年

正月晦日護摩供養法令修行奉抽天下泰平精誠候所次之御守護福島左衛門太夫殿御代右之知行盡

く被沒收候然共悲古例之廢絶于今無怠慢相勸先規之通末寺之衆徒被致集會御守護御武運長久國

家豐饒奉祈候御札等も水野松之丞殿御代まで二月朔日御城内へ取納申候所就中御領分右御札

ハ指上不申候

一第十三代目幸遍法印之時天正年中不慮に天火起り鎮守本堂護摩堂御影堂鐘樓廻廊金剛力士等二王門一時に灰燼仕其節種々の靈寶等多焼失仕候
一其後法印智再興之砌水野家より人夫材木等預御助情福山御領分勸化被仰付客殿等造立仕候
右ノ外事長ケレハ略ス

今按ニコ、ヲ談義所ト云事慶長ノ始メ伊勢配札帳ニミエタレハ久シク云ツタヘタル事ナルヘシ
花園帝中庸ノ談義ヲキ、玉フ事園大曆ニ出ツソノ比マテハ談義ト云ハ儒書ヲ講スル事ニテ
今ノ僧ノ談義ニハアラス或ハ昔國司下向ノトキ役僧ヲ置カレシ大刹ナラントイヘトモ朝野郡載
國司交代ノトキ引渡ノ物件チカソヘ舉タル所ニモ神社孔子廟國分二寺ハミエテ他ノ寺ハミエス
况ヤ寺ハ人家チカキ所ニハ禁セラル、例ナレハコノ寺ノ舊趾市中トオホシキ所ニハアルヘカテ
ス又前ニ引トコロノ講讀師ノ詔令ニモ講説トハシハシハミユレトモ談義トハミエスサレハ談義
所ト云ハ國學ニハアラスヤ凡學校ノ佛刹トナリシ事一所ノミナラス京都ノ十王堂ハムカシ十哲
ノ像ナリシチ中比アラタメツクルト云真ニシカルカ其堂製モ寺刹ニ似ス足利學校ハ今禪僧チス
マシム近比一友人ソノ地ニ遊シニ堂室破壊ニ及ントシ官ニ訴テ修理チ乞フモシ許サレテ壯麗ニ
セハ孔子如來モ御満足ナラント言シヨシチカタル石川丈山ノ詩仙堂モ今女僧ノ房トナルコノ類
所々ニ多シ談義所ノ名ニヨルニ必ムカシノ學校ニテ亂世ニスム人モナクヨキ場所ナリト僧徒占
得シナルヘシ二十年前紫島ト云天台僧備前開谷ノ學ニアソヒコレハヨキ寺刹ナルニ惜ムヘキ事
ナリト嘆セシ事アリムカシモ今モサル事ナルヘキニコソ此寺ハ管内大刹ノ一ナルニ開基モ年月
モシレスト云ハ心ツタヘカタキ心ニテツタヘサリシナルヘシ

金龍寺 紫雲山淨土宗知恩院末寺開山覺蓮社圓譽上人眞阿摩翁和尚モト地領三百貫今ナシ
通證ニハシメハ蓮池山トイヒシニヤ昔同塔ノ銘ニソノ名ミユ此銘享保二十年ナリサレハチカキコ

ロ今ノ山號ニハ改メシナルヘシ同書ニ金龍寺記ト云モノチノス事長ケレハ畧ス又曰コノ寺モト吉
田寺ト云天臺ノ大刹ナリニ王門ノ舊跡田ノアサナニノコル境内頗大ナリシヨシニテ傍近ノ田ヨリ
出シトテ今金剛力士ノ朽腐セル一軀ヲ存ス舊物ナルヘシ伊勢配札帳ニ吉田寺トアレハ慶長マテモ
舊名ヲトナヘシナリ吉田ハ葦田ノ畧ナリト云ソノ外山號額記チ手觀音大士畧由石井銘石井庵記點
潮性潛律師行畧等アリ長ケレハ略ス

龍音寺 補陀山曹洞宗龍興寺未寺開山通岩徹和尚

通證ニムカシハ天臺宗大伽藍ニテ子院等多カリシト云

憩亭三 堀垣内 上田 サ、イケ

古 蹟

蠶教庵 趾

大喜庵 趾

通證ニ潮音大伽藍ナリシトキノ坊舎ノ名今民屋島等ノ字ニコレアリ大喜庵ノ趾ハ今ノ藤ノ棚ノ西
ニテ民屋アリ蠶教庵ノ址ハ寺前テ下レハ左邊ニテ田圃ノ間ニ荒神ト唱アリ此處ナリト云今是ヲト
ンケウノ荒神ト唱ヘリ寺ノ向ニ松原ト云地名アリ其外ニ王門ノ舊趾市場辻ナトイヘル地名モアリ
トイヘリ又寺前ニ大ナル蓮池ナトアリゲルヨシ云傳ヘリ慶長三年伊勢太夫配札帳町村ニ大喜庵チ
ノセタリコレヲ以見レハソノ比マテハ存セリ其以後ニ絶タルナルヘシ

荒木屋鋪 荒木攝津守當村ニ寓居セシ事アリソノアトナリト云今ノ府中ニモコノ名アリ

本 山 村

福山ヨリ四里十八町子丑ニアタル村東西二十二町南北三十三町

田 畝

四十四町九反一畝一步 内島十九町三反八畝十四步

歳 額

三百五十九石九斗六升 内島百一石七斗七升八合

戸 口

戸九十六 口四百二十五内女二百十二僧一

畜

牛四十二 馬五

池 塘

火香山池 周六町三十間

小池十三

六郡志に此村はいつくも天水所なれども山上に池七ヶ所有ゆへ旱損といふ事なしいつれも水かゝりよき池なり金丸村へ下る方に火の池といふありいにしへ岩屋寺繁榮の節に住僧夜の間失る事たひよくなりしかあるとき人形をつくりてその腹の内に硝磺を入火を仕懸夜着打被せ置けるに大蛇誠の人と心得夜着共に一口に吞ければ火硝にうつり爆發して死したりその路蛇摺と云て今なを草木ともに生さる所ありと云

山上池六ヶ所 大池 口ノ池 尻ノ池 上新池 下新池 平岩池此池ハ正徳二年ニ開キタリト云
今按ニ大蛇ヲ殺セシハ青目寺縁起ニ萬壽四年三月十八日ノ事トミユ

山 溪

嶺一 カナ、峠 常ニ通ス

谷四

小 淵

廟 墓

日吉山王權現

通證云此社昔ハ殊ノ外ナル大社ニテ今ノ町村金龍寺ハ吉田寺ト謂テ當社ノ別當ナリシト云傳ヘリ舊記ナケレハ鎮座年代モ詳ナラス愚按ニ恐ラクハ此村青目寺開基ノ時勸請セシナラン此事ハ青目寺縁起ノ條ニクハシ又云寛永十年再建ノ棟札アリ又云今ノ社ハ元祿十六年ノ造立ナリ棟札ノ文畧ス

諏訪大明神

通證曰此社ノ來由詳ナラス諏訪明神ハ武田家ノ守護神也此所ノ地名ノ竹田ト云古城記ニ此村ニ甲斐次郎ナルモノ有今コレヲ祀リテ土人甲斐次郎ノ社ト云今其末葉甲斐氏ナルモノ民家ニ散在セリコレヲニヨリテオモフニ此甲斐次郎ハ甲州武田家ノ一族ニシテ此地ニ來住スルヲモツテ地名ヲタケ田ト呼ヒ且其守護神ヲモ此地ニ勸請シテマツレルモノナラン

小祠十二

内ニ清瀧大明神アリ通證ニ竹田ノ奥ニアリ此所ノ地名ヲ御園帳ニハ深田トアリ社ノ側ニ測流アリ此淵一面ノナメラ石ニシテ水カミ次第ニ高シ雨後水勢ノ盛ナル時ハ實ニ布ヲサラスカ如ニシテ頗ル壯觀ナリ人皆呼テ竹田ノ瀧トイフシカレトモ水簾ニハアラス此社土人ハ滑明神ト唱フ石湍ノ曲ニマシマスチモツテカク呼來レルナルヘシ此所ハ火香山ノ西南ノ麓出口村ハツ尾山ノ東北ノ麓ニシテ其北奥ヨリ社ハ隔測向ヒノ樹木生茂リイト蕭森タル所ナリト云

塔 寺

青目寺

岩谷山眞言宗榮明寺末寺

此寺縁起事長ケレハ要所ヲトリテ記ス讚州屋島寺青目上人ノ開基也
延喜年中醍醐天皇御建立

天慶七年秋天火起リ諸伽藍一時ニ燼灰ス

長久四年ニ八尾山城主山名出雲守清氏ノ再建百石ノ寄田アリ

今按ニ長久ハ六十九代 後朱雀帝ノ年號ニテ山名カ家ハモハラ九十五代 後醍醐帝ノ時尊

氏家ヲ起セシニヨリテ興リシ也此時世ニ山名家ノ人西國ニ城主タル事イフカシ山名ノ系譜ヲ見

ニ八幡太郎義家ノ男足利式部大輔義國ノ長男新田大炊介義重ノ二男山名ノ次郎義範ヲ元祖トス

長久四年ノ比ハ源義家イマダヤウヤク頼義ニ隨ツテ奥ヘ下ラントセシ以前ノ事ナリ此後十餘年

ニ頼義前九年ノ戦アリサスレハイマダ義家ノ末子義國有コトモ山名ノ家有コトモ此時タレカア

ラカシメセシヤ備後ニ山名ノ人多ク住セシハ足利殿オコラレシ後義範ヨリ八代ノ孫山名伊豆守

時氏但馬丹後美作因幡備前伯耆出雲隱岐等ヲ領セシヨリ起レルナレハ長久四年ニ山名清氏アル

ヘカラス天下ノ國郡ヲ丈量シテ石高ヲ定メラレシハ豊臣家天正年中ノ事ナレハ百石寄附トイフ

コトモイフカシ

通證曰一説ニムカシハ此山ハ天台宗ニテ今池ノ有處ニ諸堂宇アリシニヤ先年池ノ底ヲ掘シ時柱梁

ノ類若干ヲ掘出セリトイフ又此寺ノ青目上人ノ像アルハ此寺開基ニアラス當山唐ノ天台山ウツサ

レタリトイヘハ唐ノ天臺ノ青目上人ノ像ヲ彫刻シテ安置シタルナリトイヘリイツノ比カ真言宗ニ

ナリテコレマテツタハリシ青目上人ノ像ナレハ尤古像ナルヘシ

又云本堂ノ左ニ古キ石ノ五輪塔アリ臺石ニ正應五年二月二十八日座主トアリ名字磨滅シテ不可讀

因テ按ニムカシ天臺ヲ移サレタリトイフハ比叡山ヲウツサレタルニヤ今ココニ座主ノ石碑アルト

麓ニ日吉山王ノ鎮座マシマスニテシルヘシ又元和三年ノ開帖札慶安二年ノ札等アリ又云摺袈裟ノ

銘ニ正元元年四月十五日トアリ又蓮華形水鉢ノ銘ハ天文十二年八月日トアリ

德亭三 カド田 ヨリム子 山王權現下

古 蹟

旗立山城

和備後古田小太郎城記 甲斐治郎同 通證云甲斐治郎ノ祠アリテ木葉ノモノコレヲ祭ル

旗立石 六郡志に旗を立たる處なりとて穴の明たる大石あり

火香山 通證ニ此山當國高山ノ一ニシテ其山脚本山金丸荒谷諸村ニ跨リ蛇園山ト實ニ雄雌ヲ競絶

頂ニノホル時ハ東ハ三備ノ諸山ヲ望南ハ四國西ハ藝海北ハ雲伯ノ諸山ヲ望ム一名ヲ龜カ嶽ト云火

香山トイヘル事ハ火香ノ池ニヨレルカト云

今按ニ蛇園ヲ火山ト云久佐ニモ火番屋鋪ト云山アリコ、モ火ノ見ニテ上古ノ烽火臺ニハアラス

ヤ

府 中 市

福山ヨリ四里八町五十間戌亥ニアタル村東西七町十三間南北十二町二十二間申明亭榜示七枚アリ

町數九 上市 下市 横町 上辻町 下辻町 西町 新町 河原町 飛屋町 石州海道ノ馬次也

備中高屋ヘ五里甲努郡上下ヘ五里二十五町十間世羅郡甲山ヘ五里モトノ府中ハ今ノ府川ニテコ、

ハ街市ノ西端ナリシヨシ也府川ノ條ニクハシ

田 畝

三十四町五反四畝十步 内畠二十四町九反七畝五步

歳 額

五百三十九石二斗七升二合 内畠三百五十八石一斗二升四合

戸 口

戸七百八十九 口二千六百六十七内女千三百一僧十四替八外ニ乞食三穢多五十五

畜

牛十 馬十九

溝 渠

芦田川

荒谷ヨリ出土生村ニテ芦田川ニ入

才田川

本山村界ヨリ町村界マテ長六百三十四間

大溝

栖井川ト云土生大井手ヨリワカル府川町村等六村用水也

庄野池

周三町二間

堰 開

水碓二

一ハ福島時大藏村ヨリウツス慶長年中也白銀屋車ト云管内ノ大碓也一ハ寶永七年ニツク
ル阿賀屋車ト云芦田川ノ内ニアリ水野家時白銀屋ト云モノ榎實油ヲ造ルコトヲ許サル近年攝州ニ
油座ト云モノイテキ西國ノ油ヲ權スルニヨリテ白銀屋モ併セヤメラル

橋 約

把一

約一 梁四

山 溪

谷一

廟 墓

小祠十

社 倉

出口村久三郎コレヲハシム麥チ人ニカシ麥豐熟スレハスコシノ息ヲオサメ常年ニハ息ヲトラス麥
アシケレハワカチニキハス永富充國カ記アリ

備後國府中社倉記

備後國府中人大戸直純家世富商質直好學呂義著稱鄉黨焉嘗爲邑長吏見歎年小民艱食惻然心憫焉得
朱子社倉法心深欽之適會一官長事敗伏罪有人譖直純漁民賂官長者有司信之繫直純獄鄉人推其義
而悲其寃自父老子弟至鰥寡惻獨莫不百方禱請焉事稍々得白乃出直純獄直純在獄三十日與兇徒群處
窘厄備至而益自激厲憤然心擣義也及出酌便宜躬自捐麥十石且使其二子各出數斗而募諸同志不欲者
勿強斗升必錄鄉人徒義者五十餘人得麥凡五十餘斛以賑貧民俾貸者出息什一加其半冬散之夏則加
息以歛歎年蠲息之半大飢則盡蠲之自後歲必捐三石二斗以繼之蓋其月俸也如是六年遷爲出口里正乃
止鄉人相繼助義者歲必十數人而守視出納必邑吏幹事吏民皆樂爲之用始於天明戊申至寬政丁巳凡
十年得儲米百九十餘石以作社倉先是里正上月則虎謂直純曰邑有間地數武蓋園廢地而今猶復之建
倉于此不亦可乎直純喜乃貸其地歲收麥若干以爲經營資至是直純又與同志謀釀金度材卜日經始倉以
丁巳六月成高一丈有二尺廣二丈有四尺深一丈有五尺瓦屋白盛門牆守舍皆備焉於是乎一鄉千數百家
官無斗升之費而民有凶旱之儲蓋直純之力也余之至府中也自管禮卿氏管子之徒十有餘人皆後先來見
獨直純有事不至浦上盛榮請爲直純作之記余心已許之既而直純喪事來見稠人廣坐言苟及義直純淚爲
之先下余撫掌曰有是哉斯人而有斯事直純嘗還義金十兩于盛榮盛榮知直純之還義而已受未必義固辭
不得則欲以此起黨摩貸金收子以殖其財直純喜廻與同志議糾合錢財以買學田蓋副之也出口村民嘗發
前吏贖訟之不決及直純爲正質其曲直歸金于民民欲得而分之直純論以義自督其事且捐其俸以爲社倉
邑有芦田川雲石之要路也每大雨水必洋溢直純捐財爲架二圮橋遠近便之邑嘗數罹災直純知代第以瓦

可以紓患乃捐十數金致諸里正冀里正與邑吏戮力一心募同志以集義月加年殖庶幾可以成事也其舉動率皆此類而必引人同事以身先之任其勞而分其功是以人々興行以成其義云夫古之君子窮則達其身所謂生於憂患也故孔子曰陳蔡之厄邱與二三子之幸也小人反之其窮也濫放辟邪侈無所不爲今直純處窮而不同學以明善固執行之以成其義直純蓋古之人與且直純之志立千圜圍中而其美成於圜圍廢地抑不亦異乎余行天下多矣性易服義喜樂成人之美所至必咨詢先是十年余在五島作喜和傳去年遊天草作小山清兵衛傳并直純爲三一則婦人死節而已義之難如斯也夫直純字子孝一稱久三郎今因其請作社倉記並錄義行數條云于皆

寛政戊午秋七月下流長門永富受充國撰

岡塾 浦上盛榮カ別荘ノウチニアリ出口村久三郎カ兄譽ヲワカチテ居シカ死シテノチ負債アリ久

三郎ミナコレヲツクノフ盛榮ニカヘセシ若干金盛榮辭シテ受ケス兩人議シテ其金ヲモチテ書院ヲ
タツ樂郡舎ハ博士柴栗山先生ノナツクル所扁額モソノ書也

塔 寺

明淨寺 光曜山淨土眞宗西本願寺末寺

通證ニ明淨寺略縁起ヲノス

抑當寺ハ鎌倉明光上人直弟明淨法師ノ開基ニテ明隆明詮明安明久明誓明嚴明圓明觀ト相傳ハリ次弟相續シテ當國芦田郡久佐ニ幽棲ヲ示シケルカ子孫斷絶シテ荒廢ニ及フ其比毛利元就ノ宗臣田坂善應同善慶ト云兄弟二人天下騷亂ノ砌打死シ善慶一子田坂政秀出家シテ其名ヲ教春法師ト號ス則當寺中興ナリ教春モ初ハ久佐村ニ住セシカ權崎ノ亂ニヨリテ彼地ヲ退キ上山村ニ移ル御堂ノ前トイフ是其舊地ナリ又其後高倉トイフ處ハ草庵ヲカマハ彼地モ山林幽谷ナレハトテ其後栗柄村ニウツルソコナチ今ナチ如來堂トイフ其後府中ニ移ル今明淨寺是ナリ餘コレヲ略ス

今按ニ御堂ノ前今河面村ニ屬ス

通證云今ノ寺地ハモト芦蕩也川原ト云地ノ内也又云縁起ノ栗柄ハ土生ノ誤也

光圓寺 琢磨山同宗明淨寺末寺

通證云出口村湯森ヨリ移ル

法音寺 豐饒山法華宗妙顯寺末寺

六郡志にもと篠尾村妙音寺といふ眞言寺なり大覺上人を信じ宗旨をかへいつの比かこゝに移る其後小なる觀音堂になりて大覺屋鋪と云つたへしを水野玄蕃再興すと云寺中に淺井の水といふ井ありと云

今按ニ廣谷村臼井ノ水ノ所ニ光蓮寺トミユレトモ今時ハ二寺ノ内ニモソノ外ニモ淺井ト云名云

ツタヘス或ハ昔アリテ今埋シヤ光蓮ノ蓮塔ヲクハ圓ノ觀

庵二

孝 子

福山屋治兵衛 白銀屋吉良兵衛 つば

節 婦

あき ミナ總叙ニイタス

出口村

福山ヨリ四里十二町戌亥ニアタル村東西六町南北二十二町三十間關議アリ

田 畝

二十九町八反六畝十三步 内畠十九町一反八畝二步

歳額

四百十石三斗八升一合 内島二百十六石一斗四升二合

戸口

戸百九十三 口七百九十一内女三百六十三僧六替一

畜

牛五十三 馬十二

溝渠

荒谷川 荒谷村界ヨリ目崎村界マテ長千七百間アルヒハコレヲ芦田川ト云

天神淵 不淨ヲ忌誤テケカスモノアレハ爲祟ト云

神原淵

池塘

小池六 内一ヶ所羽中ニアルハ近比里正久三郎費ヲ出シテ鑿ル

堰開

水碓三

橋約

小橋六 内祀ニ荒谷川ニワタスソノ處ヲ橋本ト字スルヲ見レハムカシハ橋ワタセシ所ナルヘケレ

ト久シクダエテ石碓ノミアリ漲溢スレハ迂回ニ畦下ヲマハリテ牛馬カヨハスマタ銀山官吏ノ往來

ニハ人夫ヲ多クアツメテ費多キユヘ今ノ里正久三郎村民ニ課セスシテコレヲツクル人ミナ便ナリ

トス今時ノ惠政ヲウケシ心トテ一ヲ惠ハシ一ヲウケハシト名ツク

山溪

谷五

廟墓

神南備大明神 延喜式神名帳ニノスル處ノ賀武奈備神社是ナリ祭神別ニ辨説アリ

三代實錄云貞觀九年夏四月八日丁酉備後國從五位上甘南備神高諸神並授正五位下

同元慶二年十一月十三日甲辰備後國正五位上甘南備神高諸神並授正五位上

通證ニノスル所ノ甘南備社靈驗之事畧

一永祿元戊午年天下一同旱魃ノ時國守毛利元就公此神ニ雨ヲ祈タマヒテシルシアリシニヨリ廣島

ヨリ能太夫諸役者樂人御コシナサレ神前ニ於テ品々ノ饗ヲツクサセ其上御物料トシテ近所ノ田一

町餘永代寄附ナサル福島正則國中寺社領取上ケラレシ時此社ノ神領モ沒收セララル水野記ニモト社

領十八貫トミユ

今按ニ永祿ノ時ハ毛利家吉田ニアリ廣島ノ時ハ輝元卿ナルヘシ元就興ラレシ時陰德太平記ニ毛

利元就一矢ヲ放タスシテ備後三十六城ヲ降スト見エタレトモ塙主郷帥所々ニアリテ手下ニ属セ

シトイフノミナレハ時勢ヲオモヒミルニ廣島ノ時ナルヘシ

又云寛永貞年ノ大旱ニ水野日向守勝成公町村榮明寺若泉法印ヲシテ當社ニテ雨ヲイノラシメタ

マヒシシルシアリシカハ先例ニ任セテ神前饗樂興行有御供料田モ寄附アル

寛文癸卯年ノ大旱ニモマタ祈リテシルシアリ劇場踏歌ナトヲ興行シケル事アリソノ外多クアレト

モ略スト云

本社寛永三年丙戌松平下總守再興

古老傳ニ出雲國三穗崎ヨリ御鎮座

寛永三年赤岩尻田地一ヶ所御供料水野勝成寄附

寛文三年境外山二町水野氏寄附

羽中八幡宮

通證云羽中八幡宮ハ八ツ尾古城ノ守護ノ神ナリトツタフ昔ハ今ノ社ノ後ノ山今宮ノ

壇トイフ所ニ鎮座アリケルヲ元祿五年ニ今ノ社地ニ下シ其時造營スモトノ御社ハ今境内ニマシマ

ス天神ノ社コレナリ今ノ本殿ハ寛保二年ニ造營ス寛保二年壬戌ノ六月五日柱立同十一日上梁三年

癸亥八月十三日遷宮アリモト社領十六貫今ナシ

又此社ニ古キ高麗狗アリニツナカラ臺ナクシテ粉飾剝落シテ本地トナレリ又古キ鉾ノ餘アリ何レ

モ皆古物ニシテ其年代來由チ知ルモノナシ拜殿ニ寶永戊子夏寄附ノ色紙短冊形ノ額アリ書ハ竹夫

トイヘル人ナリ

葦高大明神

葦那陀迦神備中窪屋郡ニアルト同神ナリ水野記ニ社領モト十二貫毛利ノトキ三十貫

後ニ粟屋右近飯田越中十六貫ヲヨストミユ今ナシ

小祠十八

社倉 本村里正久三郎創ム法ハ府中ニオナシ久三郎實名直純

塔 寺

慶照寺

光曉山淨土眞宗明淨寺末寺舊趾北ノ山間ニアリ

庵一 神南ノ下ニアリ佳境ナリ

憩亭二

通證云憩亭ノ内ニタイコ堂ト云アリ或云昔石邑ノ邊ニアリテ八ツ尾城ノ時ノ太鼓ヲ打シ堂ヲ此所

ヘ引シヨリ太鼓堂ト云傳フトナリ

又云石邑ノ觀音ト云ハ出口村荒谷村ノ堺ノ山上ニアリテ頗奇絶ノ地ナリ大厦ノ如キ巨石山腹ヨリ

突出ス其石ニ柱シテ一憩亭ヲ作ル其亭ニ登ルトキハ使人病悻其堂ヨリスコシツキニクハリ岩ナト

云テ大石ノカサナリタル間ニ一小洞アリ樵童戯レニコレヲ穿遊ユヘニクハリ堂ト云堂ヨリ向ハ八尾ノ城山其間ハフカキ谷也只南面ノミ遠望スルニ足ル堂ヨリ上ノ山ニハ巨石疊々トシテ其所ニ愛宕ノ祠アリ此所ハ荒谷村ニ屬ス余曾遊ノ時小記ヲカキシコトアリオモシロキトコロナリ石邑トハムラハ群ナリ萬葉ノ湯津岩ムラノ類ナルヘシ山脈ハ火香山旌立山ソレヨリスコシ下リテ此山ナリ府中ヨリハ荒谷山王ノ社地ヨリ登ルヲ至便トス其他ハ至險ニシテ攀ルコト難シ

古 蹟

八尾山城

通證ニ此古城ノ鐵櫃トイフモノ有小森丹下ト云人二百年前持傳シトテ今羽中ノ農家ニアリ今ハ破却シテ底モナク只一重ハカリ殘レリ徑二尺ハカリ高三尺ハカリ是城主山名氏ノ舊物ナリトイフ丹下ハ即山名氏ノ家臣ナリ其宅趾今羽中八幡ノ下ニアリ

山名伊豆守清氏

備後古城記
備中府志

今按ニ此人應仁以前ノ山名系圖ニ見エスノ以後ノ人ナリシヤ一本古城記ニハ時與トアリ山名

事總叙ニ出與ハ興ノ誤ナルヘシ

宮田備後守 備後古城記ニ應仁年中

今按ニ應仁別記重修應仁記ニ宮田ハ山名入道ノ一族ト見ユ此時宗全ノ息彈正忠是豐備後ヲ管カ

ラレシ事已ニ安那郡川北村神邊ノ城ノ所ニ詳ニス是豐ハ父子ノ間心ヨカラス父ニ背テ細川ニ與

ス宮田ハ但馬ニ有シト見エテ多勢ヲ率テ宗全カ留守居山内新左衛門カ館ヘ來リ攻シ事アリサレ

ハ備後ニテ宗全ニ屬セシ人モ多カリシト聞エ是豐備後ヲ一圓ニ領セシニモ非ストミユ宮田ハ應

仁ノ初ハ在京セシニヤ別記ニ曰應仁二年戊子九月三日内藤備前守丹波ノ國ヲ相催シ久下中澤萩

野本庄足立菅田以下大江山ヲ打コエ谷ノ堂峯ノ堂梅津桂ヲ發向シ同六日嵯峨ノ天龍寺ヲハシメ

トシテ悉放火シケリ依之山名金吾ヨリハ宮田備後守ヲ大將トシテ同七日諸家ノ勢相ムカヒケリト云云コレヲ以テ考ルニ宮田是豊ヲ爲ニ奔走セシモノトミユレト應仁以前ハ是豊父子ノ間モムツヒケル故コノトキ尙イッレノ命ヲ奉シタルヤコノ後備後ミタレタルユヘ宮田來テ八ッ尾ノ城ヲモ守リ又山内ヲ攻シコトモアリシヤ新左衛門ハ應仁記ニ是豊カ留守トミユレト宗全カ留守タルコトハリノ家ノ感狀文書ニテイチシルシソノ比記載ツマヒラカナラスマチ々々ノ説ヲ傳ヘシナルヘシ兩存シテ再考ナマツ

山名宮内少輔理興

六郡志ニ出ツ

今按ニ天文年間ノ人ト見エテ吉備津宮ノ鐘ノ銘ニ此人ノ名アリ大内記ニコノ人神邊城ニアリシヨシミユ山名杉原ノ際姓字疑ハシキコトアリ神邊ノ條又辨説ニミユ

節 婦

なつ 總叙ニイッ

荒谷村

福山ヨリ五里乾ニアタル村東西三十四町二十八間南北五十二町

此村峯巒ノ間ニアリテ人家潤邊アルヒハ巒上ニアリ雲石ノ街道ニテ府中ヨリ上リ入ル坂根トイフ坂ヨリ阿字等ノ村ヘ下ル甚タ險隘ニテ雲氣衣ヲ濕ス阪下ニ藜荷ノ丸山ト云峰アリ阪上ヨリ半マテ兩涯突兀樹木鬱葱ノ間季春ノ比ニイタレハヤマフキノ花滿山ニ開キ原野ノ菜花ノ畦ヲ見ル如ク黃金堆中ニ入ルコ、チスト云

田 畝

六十二町七反六畝十九步 内畝四十四町九反二畝十八步

歲 額

四百五十五石二斗六升八合 内畝二百六十六石五斗二升

戶 口

戶百八十九 口九百四十九内女四百六十二

畜

牛百三十四 馬二十六

溝 渠

小湖二 一ハ空木嶺ヨリ出 一ハ木野山村界ヨリ出合シテ一川トナル内ニ大石ヲ柱ニシタル橋アリ

リ幅八尺長六間半石高一間回リ六間

池 塘

小池三

堰 關

水碓一

橋 約

堤一

山 溪

谷五

嶺二 坂根 上下村及雲州石州ニ通ス 空木越 東城ニ通スコノ下ニワカレウシト云所アリ上

下ト東城ヘワカル、岐路ナリ今按ニワカレ大路ナルヘシ

廟 墓

日吉山王宮 東谷ニアリ

山田明神 宮ハカト云本山明見ノ二ノ宮ト云

八幡二社 一ハ室房ト云引野村ニミユ一ハ高倉

龍田大明神 リウタトヨム此所楓城多シ棟札ニハ夷王子ノ社トアリ

小祠十六

塔 寺

憩亭六 尾原 清水 谷中 板井迫 高倉 室房

福山志料卷之二十終

明治四十三年四月二十五日印刷
明治四十三年三月五日發行

上下定價金七圓

著作者故茶山菅 晉 帥

發行者 石井貞之介

廣島縣深安郡深津村
二百二十五番屋敷

發行所 福山志料發行事務所

廣島縣深安郡福山町
字船町福山商工會内

印刷者 坂本恒三郎

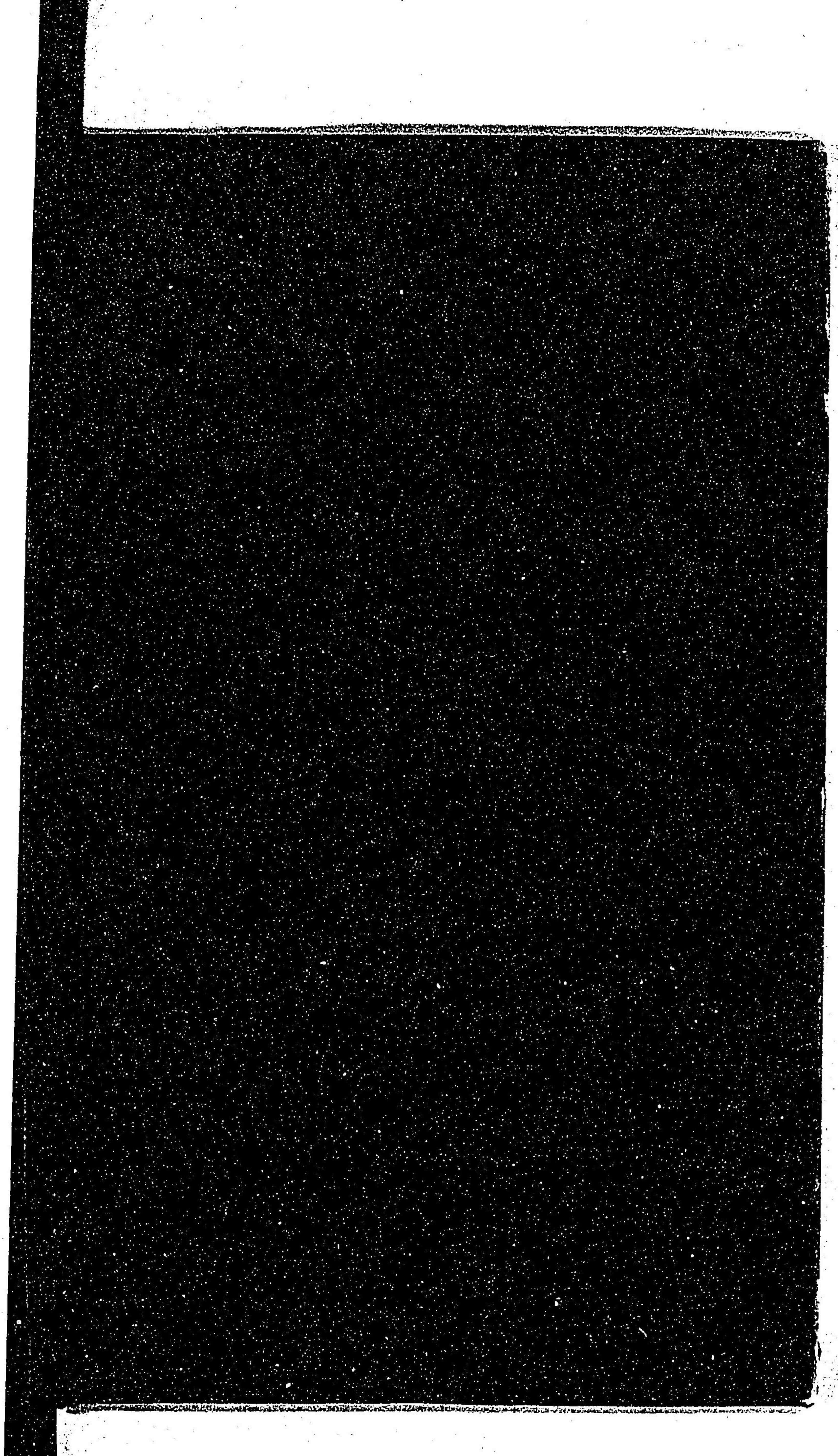
大阪市東區横堀二丁目
二十番地

印刷所 大阪龍雲舎

大阪市東區横堀二丁目
二十番地

328

239



025984-001-5

328-239

福山志料

菅 晋師 (茶山) / 著

1冊 (上1-20編)

M43

ADC-3570

